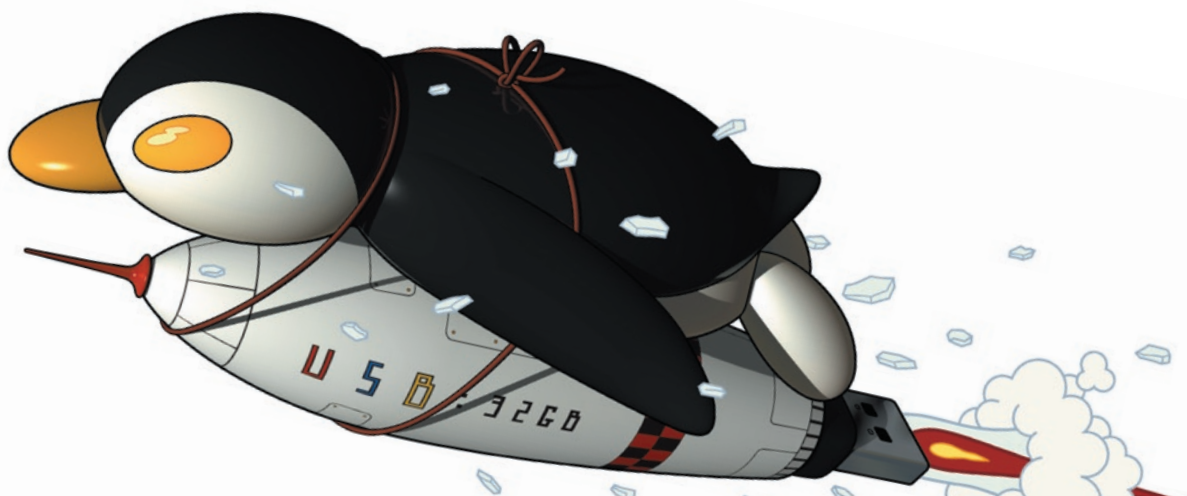
Ubuntuより簡単!?驚異のOS「Jaris」+USB Linux完全攻略
遊んで学べる
Windowsユーザーのためのリナックス情報誌!
リナックス100%
Linux100%
100%ムックシリーズ
定価1,380円
Vol.7
Jaris&Ubuntu
誌面と完全連動
ブータブル&ISO仕様
DVD
OpenSolarisベースでLinuxよりも安定・快適
1 Jaris
デスクトップLinuxの超定番
2 Ubuntu 8.10 +α
大人気!リナックスラボ
「玄箱」で作るマルチメディア・サーバー!!
1TB HDDをフル活用!
ネットワーク・シアター構築術
完全保存版
総力特集
商用OSベース+純国産
=Ubuntuよりスゴイ!?
Linuxと並ぶもうひとつのオープンソースOS
Jaris襲来!!
Ubuntuみたいに操作しやすく安定性も抜群!
Linuxでは認識しないハードもすんなり動作!
MS-OfficeなどのWindowsアプリも起動可能!
ライブCDとは一味違う!
ソフト追加はモチロン
カスタマイズもOK
ポケットサイズの
Linuxが簡単に作れる!!
いつまでGnomeだけ使ってるつもり?
デスクトップ超絶改造計画
超軽量シェル「LXDE」から最新版「KDE4.2」まで
デスクトップ激変テクを完全解説
USB Linux完全攻略
USB Ubuntuで大容量HDDを自由自在に管理!
USB Fedoraで最新Linux環境を気軽に利用できる!
USB Knoppixで壊れたHDDからデータ復旧!
USB Puppy Linuxで旧型PCでもリナックス体験!
USB DSLで超軽量のLinux環境を作る!…など
さらに……
Windowsから
USB Linuxを
作成する方法も!

DVD-ROMの使用前に必ずお読みください

【本誌付録DVD-ROMの特徴】

本誌付録DVD-ROMは、OpenSolarisベースのディストリビューション「Jaris」の起動ディスクとして、インストールすることなくJarisの機能を利用できます。

また、このDVD-ROM内には、Ubuntuをはじめ各種LinuxディストリビューションのISOイメージも収録しておりますので、CD-RやDVD-Rに焼き込んでお使い下さい。

【DVD-ROM使用前の注意点】

本誌付録DVD-ROMから「Jaris」を快適に使用するには、お使いのパソコンが以下の条件を満たしている必要があります。

●メモリ512MB以上（フル機能を利用したい場合、2GB以上のメモリ容量を推奨）

●Core2DuoなどのデュアルコアCPUを搭載し、NVIDIA Geforceシリーズのグラフィック環境を推奨

付録DVD-ROMについては弊社にて十分な起動・動作確認を行っておりますが、すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。お客様のパソコンで起動しない場合、ディスク不良に起因する新品交換を除き、弊社では一切の責任を負うことはできません。

付録DVD-ROMおよび本誌記事により生じたいかなる損害・不具合についても、弊社で一切の責任を負うことはできません。あらかじめご了承ください。

本誌付録DVD-ROMを使用した場合には、以上の項目にすべて同意したものとみなされます。

株式会社晋遊舎
「Linux100%」編集部

Linux100%

Let's Enjoy!!

Linux100%

Vol.7 CONTENTS

付録DVD-ROMからパソコンを起動した場合

1 DVD-ROMをパソコンにセット

本誌付録DVD-ROMをDVDドライブにセットした状態で、PCを起動する。HDDよりも先にDVDドライブから起動するように、BIOSを設定しておこう

2 専用の起動メニューが表示される

DVDの内容が読み込まれ、Jarisの起動メニューが表示される。通常はカーソルキーで一番上の項目を選択して、Enterキーを押す

Jaris&Ubuntu
and more...

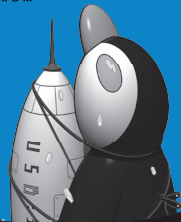
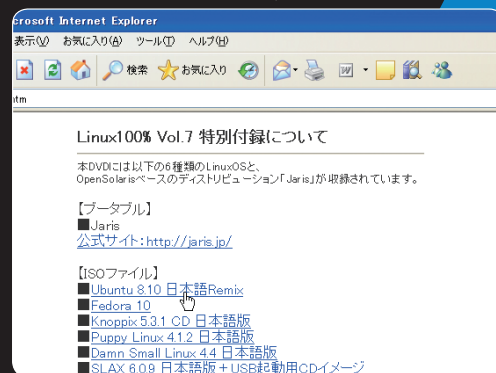
Linux & Another Open Source OS
Powered by Project Jaris! & Ubuntu Japanese Team
Linux100% ©2009 SHINYUSHA　Pressed by Singapore

DVD ROM　Linux100%

本誌付録

付録DVD-ROM内のデータを閲覧する場合

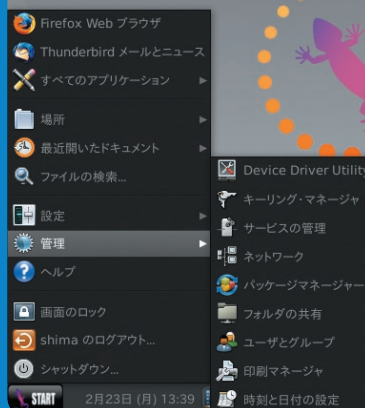
1 ブラウザでメニューが表示

Windowsを起動した状態で付録DVD-ROMをPCにセットすると、Webブラウザが起動して専用メニューが表示される。自動では表示されない場合もあるので、その際はROM内のindex.htmを開こう

2 任意の項目をクリックする

表示されたメニュー上から、利用したいディストリビューションのISOイメージが収録されたフォルダへのリンクをクリックする

ライブDVDでJaris起動!

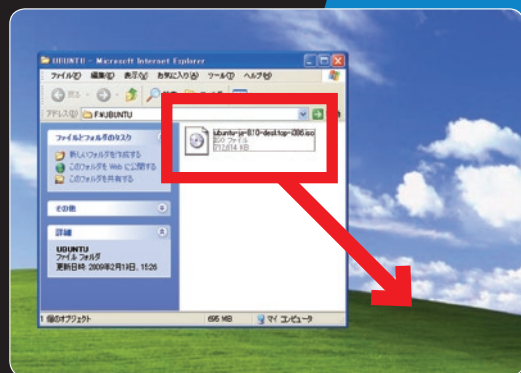
3 専用のIDとパスワードでログインする

ID=kota　PASS=jaris

ライブCD版ではIDとパスワードがあらかじめ指定されているので、上記のIDおよびパスワードを入力してログインしよう

本誌付録DVD-ROMからJarisの起動に成功！　Ubuntuと同様にGNOMEデスクトップを採用しているが、画面の雰囲気は結構違っている。ここから、Linuxとは異なるオープンソースOSを体験しよう

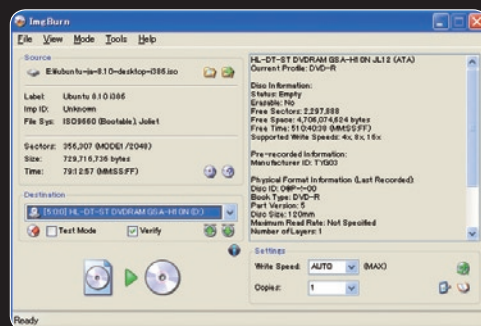
『Linux 100 %』vol. 7 付録ディスクの使い方

DVD-ROM Navi

3 ISOイメージをパソコンにコピー

お目当てのISOイメージを、HDD上にコピーしておこう。ここからCD-Rに焼き込んだり、イメージのままマウントして利用したりといった使い方がある

Windows上でISOイメージをCD化するには?

UbuntuにはISOイメージのライティングツールがあらかじめ導入されているが、Windowsは標準設定ではISOをうまく扱えない。そこで、ISOイメージをCD-RやDVD-Rに書き込むためのツール「ImgBurn」をインストールしてみよう。各種ディストリのISOイメージをディスク化できるぞ。

公式サイトまたは付録DVD-ROMからインストーラを入手して、Windowsにインストール

ISOファイルを開き、書き込みドライブに空のCDまたはDVD-Rを挿入。あとはライティングするだけ

多彩なLinuxディストリのISOイメージを収録!

Windowsアプリもインストール可能!
Linuxとは違うもうひとつの
フリーOS、登場!!

Jaris Complete capture guide
完全攻略ガイド

Linuxのペンギンキャラに慣れ親しみ、UbuntuやFedoraを使っている読者も多いことだろうが、ヤモリのシルエットが特徴的なちょっと変わったディストリビューション「Jaris(ヤリス)」が登場した。

この特集では、Windowsアプリケーションがそのままインストールでき、ユーザーの使い勝手を最優先に考慮したつくりとなっているJarisがいったいどんなディストリビューションなのか、インストールからその使い方までを紹介しよう。ぜひ、Jarisの魅力に取りつかれてほしい。

Solarisの逆襲か?

純国産のフリーOS!

Jarisってなんだ?

Jaris? えっ、また新たなLinuxのディストリビューション? って思われるかもしれないが、生まれがちょっと変わってる。もともとはサン・マイクロシステムズが開発した「Solaris」というUNIX系OS。商用サーバ用OSとして広く使われているが、デスクトップ用としてはWindowsやLinuxに遅れをとった感があった。そこで、Solarisのソースコードを公開したOpenSolarisプロジェクトが立ち上がった。そこから生まれたのがJaris。「**Ja**panese Sola**ris**」から名付けられたJarisは正真正銘、日本生まれの日本育ち。OpenSolarisプロジェクトに認められた正式なディストリビューターだ。Ubuntuなどとはちょっと系列が違うが、なにかとおもしろい試みをやってくれそうな予感がするJaris。5人の開発者とその仲間の方々による開発に、期待が高まるぞ!

Jaris（ヤリス）を捕まえる（モノにする）5つの方法

Chapter1
Jarisをインストール

なにはともあれ、Jarisのすごさを知るためにインストールしよう!

8page

Chapter2
Jarisの基本操作

[START]ボタンがすべてのキホンとなる。ヤモリをクリックして使い始めよう!

10page

Chapter3
アプリケーションガイド

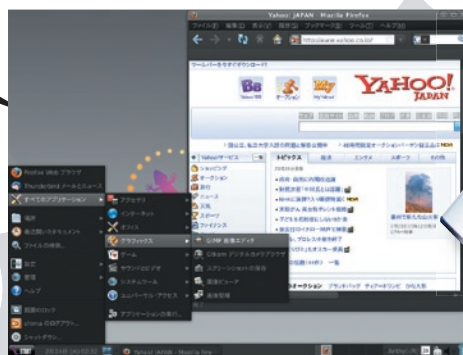
FirefoxやThunderbirdはもちろん、Gimpなども用意されているぞ!

12page

Chapter4
JarisでWindowsアプリを使う

Windowsに切り替える必要はナシ! JarisにWindowsアプリをインストールして使おう!

14page

Chapter5
ライブUSBでJarisを携帯

こんな便利なディストリビューションはUSBメモリで持ち歩こう!

16page

その全容はHDD上でこそ明らかになる!

Chapter 1 Jaris 完全インストールガイド

Jarisは付録DVDから起動して使うこともできるが、せっかくのおもしろいディストリビューションは、インストールして存分に楽しみたいもの。ここではインストール方法と起動について紹介する

Jarisのインストールに必要なのは、使っているマシンにインストールするのなら16GB程度のハードディスクの空き容量。ハードディスクに空きがない場合は、1台ハードディスクを用意しよう。付録DVDからJarisのライブDVDを起動し、デスクトップにある「Jarisをハードディスクにインストールする」をクリックして、インストールを開始する。画面の指示に従って進めば、すぐにJarisが使えるようになるぞ。

付録DVDからインストール

1 Jarisを起動する

パソコンの起動デバイスが光学ドライブになるようにBIOSを設定して、付録DVD-ROMから起動。Jarisの起動画面で「jaris b98cx」を選択して「Enter」キーを押す

2 ユーザ名の入力

ユーザ名に「kota」と入力して、「OK」をクリック

3 パスワードの入力

パスワードには「jaris」と入力して、「OK」をクリック

4 インストール開始

付録DVDからJarisが起動。デスクトップの「jarisをインストールする」アイコンをダブルクリック

5 ようこそ画面

ようこそ画面で「次へ」をクリックする

6 インストール先の選択

インストール場所を選択。単独でHDDにインストールするには「ディスク全体〜」を、パーティションに分けるには「パーティション分割」をチェック

インストールはどっちにする?

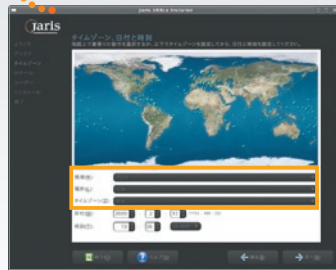
インストール方法は2種類ある。ひとつは、WindowsとJarisを1台のHDDに共存させるデュアルブート・インストール。WindowsマシンのHDDをパーティションで分割して、そこにJarisをインストールするタイプだ。もうひとつのクリーン・インストールでは、もう1台HDDを用意して、そこにJarisをインストールする。どちらの方法にするか、好みに合わせてインストールしてみよう。

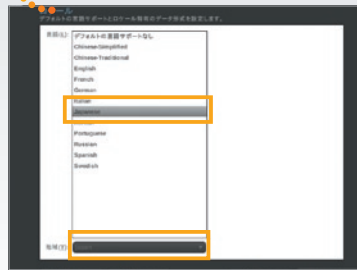
jaris専用マシン

HDDを増設してJaris専用にすれば、なにも考えずにJarisをインストールできる

デュアルブートマシン

WindowsもJarisも使いたい人向け。パーティションの設定を行えば、HDDを増設する必要はない

7 時刻の設定

「地域」は「アジア」、「場所」は「日本」、「タイムゾーン」は「日本」に設定し、日付や時刻がずれていたら設定する

8 言語の設定

「言語」で「Japanese」を選択、「地域」で「Japan」を選択して、「次へ」をクリック

9 インストール先の選択

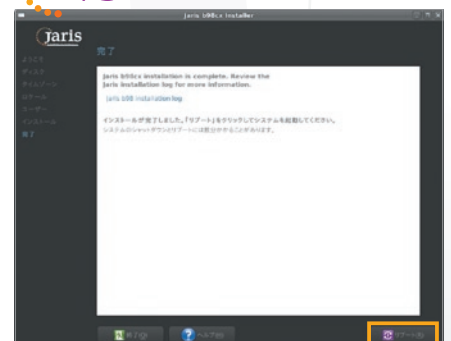
rootパスワードに管理者用のパスワードを入力。名前やログイン名、パスワード、コンピュータ名を入力しよう

10 設定の確認

インストール先やユーザーアカウントなどの設定を確認して、「インストール」をクリック

11 インストール画面

インストールの進捗状況はヤモリの色で確認できる。ただし、一度ヤモリが塗りつぶされても完了ではない。なんと二度塗りつぶされるまで待つのだ

12 インストールの終了

インストールが完了したら、「リブート」をクリック

Jaris、起動!

1 起動時の画面

HDDから起動したJaris。「jaris b98cx」を選択して、「Enter」キーを押す

2 ユーザ名の入力

設定したユーザ名を入力して「OK」をクリック

3 パスワードの入力

設定したパスワードを入力。「OK」をクリックする

フルバージョンに期待!

今回、付録DVDに収録したJarisは「Jarisベーシックダウンロード DVD版」を元に作成している。ベーシックとはいえかなり使えるのだが、フルバージョンの性能はそれをはるかに超えるもの。200種類以上のアプリケーションやVirtualBoxを標準で搭載し、プリンタドライバも用意されるようだ。近々フルバージョンが期間限定でアップされる予定なので、JarisのWebサイトを定期的にチェックして、最新情報を入手しよう。

JarisのWebサイト
http://jaris.jp/

「シンプル イズ ベスト!」のデスクトップ全解剖

Chapter 2

Jaris デスクトップ完全丸わかり

Jarisを操作するにあたって、はじめにデスクトップの各部分と名称を確認しておこう。起動時はなにも表示されてないので不安に感じるかもしれないが、使い慣れると、その便利さを目の当たりにするぞ

デスクトップ操作案内

Jarisのデスクトップは、WindowsXPに似てタスクバーが画面下にあるだけの、いたってシンプルな構成。はじめて起動したときは戸惑うかもしれないが、数々の便利な機能を知ると、そのシンプルさにも納得するだろう。WindowsやLinuxを使っている人なら、すぐにモノにできるはず。まずは「START」ボタンをクリックして、搭載されている各機能を見てほしい。そこからJarisの世界が一気に広がるのだ。

■「START」ボタン

Jarisの操作の基本は「START」ボタンから。アプリケーションの起動からコンピュータやフォルダ、ネットワークの表示など、ほぼすべての操作を行う

■ゴミ箱

削除したファイルやフォルダはゴミ箱に入る。うっかり捨ててしまったファイルなどはダブルクリックで開いて取りだそう

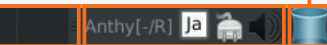
■日付

日付と時刻を表示。クリックすると、カレンダーが表示される

■デスクトップ表示

デスクトップに表示されたすべてのウィンドウを隠してデスクトップを表示する

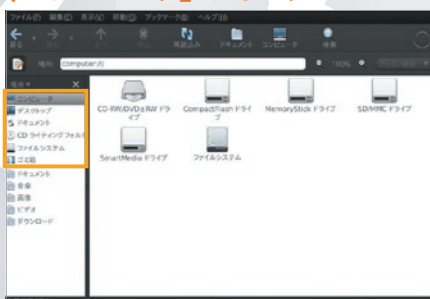
■ワークスペースの切替

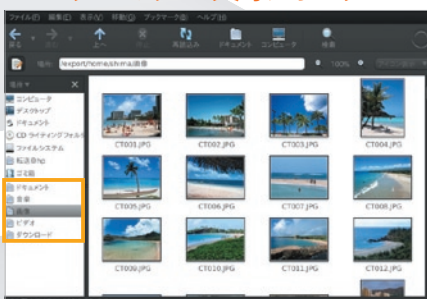
Jarisでは4つのワークスペースがある。ここで切り替えて使用する。現在のワークスペースはグレーで表示

■通知アイコン

電源の状況や日本語入力、音量などのアイコンが表示される

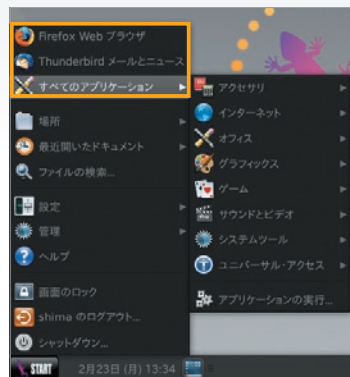
フォルダを使う

まったく何もないデスクトップに不安を感じたら、「START」→「場所」を開いてみよう。各フォルダのウィンドウが表示されるぞ。ウィンドウにはフォルダ間の移動や検索のためのアイコンが並んでいる。

「コンピュータ」フォルダ

「コンピュータ」フォルダには、メインのフォルダとなる「ファイルシステム」フォルダや、内蔵・外付けなどのドライブが表示される。Windowsの「お気に入りリンク」に相当

ユーザーのデータ用フォルダ

Windowsと同様の「ドキュメント」フォルダや「音楽」、「ビデオ」、「ダウンロード」フォルダも並ぶ

「STARTメニュー」操作案内

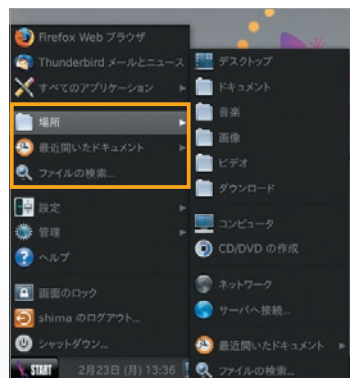
シンプルなデスクトップの左下にある「START」ボタン。Windowsの「スタート」ボタンとほぼ同じ感覚で操作できる。表示されるSTARTメニューから、アプリケーションの起動やフォルダ（ディレクトリ）移動、環境設定、Jarisの終了など、すべての操作ができるのだ。STARTメニューの機能さえマスターすれば、あとは違和感なく使いこなせるだろう。ここではSTARTメニューの4つに分類された項目について紹介する。

アプリケーション

Jarisには、はじめから各ジャンルで使用できるアプリケーションが搭載されている。それらのアプリケーションは、「すべてのアプリケーション」メニューからアクセスできる。また、よく使うアプリもここに登録しておくと便利。

すべてのアプリケーション

Jarisに搭載されているアプリケーションは、「すべてのアプリケーション」にジャンルで分けられている。FirefoxとThunderbirdは別メニューで独立しており、すぐ起動できる

端末

「すべてのアプリケーション」→「システムツール」→「端末」で起動。Windowsのコマンドプロンプトに相当し、コマンド入力で操作する

場所と検索

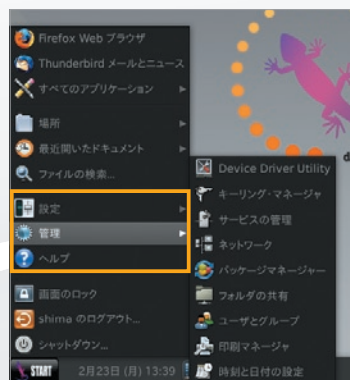
第2ブロックには「場所」と「最近開いたドキュメント」、「ファイルの検索」がある。フォルダ（ディレクトリ）へ移動したり、作成したファイルを素早く開く場合に利用する。見失ったファイルは検索して見つけよう。

場所

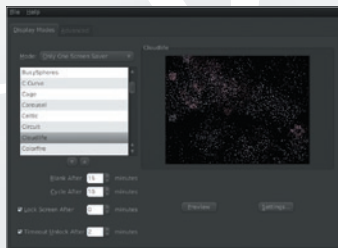
ここからドライブやファイルシステムに移動する。「場所」を選択すると、「ファイル・ブラウザ」ウィンドウが表示される。Windowsと同様に「ドキュメント」や「画像」、「ダウンロード」フォルダがある

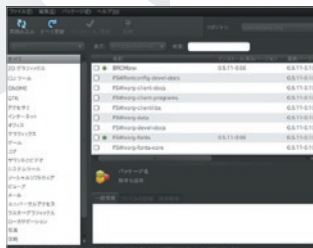
ファイルの検索

ファイルの検索はここから行う。ファイルやフォルダ（ディレクトリ）名を入力して検索。「追加のオプションの選択」で日時やファイルサイズなどの条件を設定できる

Firefox Web ブラウザ
Thunderbird メールとニュース
すべてのアプリケーション
場所
最近開いたドキュメント
ファイルの検索...
設定
管理
ヘルプ
画面のロック
shima のログアウト...
シャットダウン...
START
2月23日 (月) 13:39
Device Driver Utility
キーリング・マネージャ
サービスの管理
ネットワーク
パッケージマネージャー
フォルダの共有
ユーザとグループ
印刷マネージャ
時刻と日付の設定

設定と管理

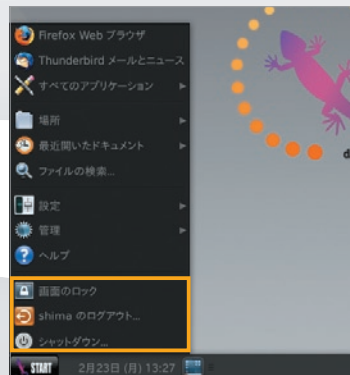
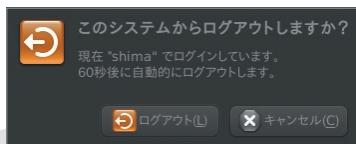
第3ブロックは「設定」と「管理」を行う。「設定」ではウィンドウやファイルの設定から画面解像度、外観、入力デバイスなどの設定が可能だ。「管理」ではアプリの追加やユーザやネットワークを管理する。

スクリーンセーバー

3Dやフラクタルデザインなど、他のディストリビューションとは一線を画するスクリーンセーバーが揃っている。「設定」→「スクリーンセーバー」から選択する

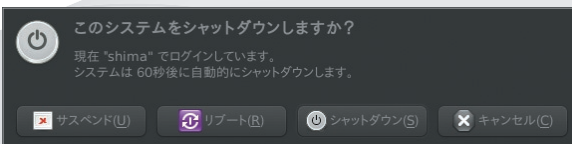
パッケージマネージャー

Jarisのパッケージ管理ツール。数あるアプリケーションの中から、必要なものを追加しよう

Firefox Web ブラウザ
Thunderbird メールとニュース
すべてのアプリケーション
場所
最近開いたドキュメント
ファイルの検索...
設定
管理
ヘルプ
画面のロック
shima のログアウト...
シャットダウン...
START
2月23日 (月) 13:27

ロックと終了

第4ブロックは、「画面のロック」と「ユーザのログアウト」、「シャットダウン」がある。マルチユーザーを切り替えたり、マシンを終了するときに利用する。サスペンドや再起動もここから行う。

ログアウト

ログアウトする場合に使用。マルチユーザーで使用しているときは、ユーザー切り替えに使う

シャットダウン

Jarisを終了する。Windowsのスリープに当たる「サスペンド」や再起動の「リブート」もここで選択。「シャットダウン」を選択すれば60秒後に自動で終了する

アプリケーションとデスクトップをマスター

Chapter 3 Jaris使いこなしテクニック

Jarisには様々なアプリケーションがはじめから搭載されている。では、これらのアプリケーションはどうやって使うのか。また、新たに追加するには？　デスクトップのカスタマイズも合わせて紹介するぞ

アプリケーション

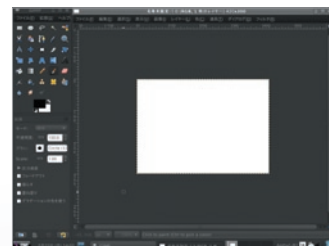
Webブラウザにメーラー、画像加工・ビューア、ミュージック・ビデオプレイヤー、メッセンジャーを搭載と言えば、パソコンを使う上で必要なアプリは揃ったも同然だ。ここでは搭載アプリケーションの紹介と、「パッケージマネージャー」に用意されているアプリの追加方法を伝授しよう。

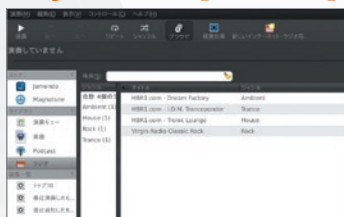
Firefox【ブラウザ】

言わずと知れたプラグイン形式のWebブラウザ。プラグインを追加してカスタマイズもできる

Thunderbird【メーラー】

ファンも多いメーラー「Thunderbird」を搭載。スケジュール管理ができるカレンダー機能もある。また、Windowsの「Outlook」に似た「Evolution」も搭載

GIMP【グラフィックソフト】

Linuxの世界では定番の、高機能な画像処理ソフト「Gimp」。これさえあれば、Photoshopを買う必要はない

RhythmBox【音楽編集】

iTunesに似たインターフェイスのミュージックプレイヤー「RhythmBox」。iPodを接続して楽しもう

Evince【PDF閲覧】

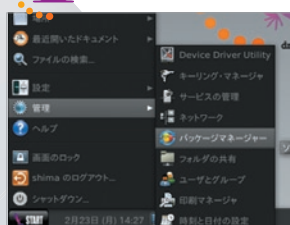
PDF閲覧アプリケーション「Evince」。JarisでPDFファイルを見るときはおまかせ

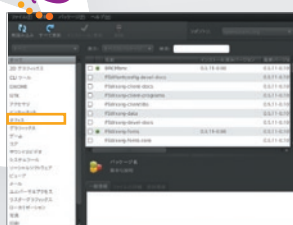
Pidgin & Ekiga【コミュニケーション】

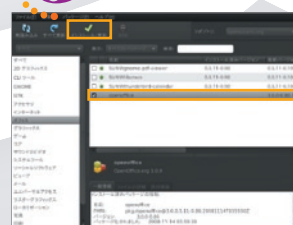
メッセンジャーツール「Pidgin」（左）と、ビデオチャット「Ekiga」（右）。この２つがあれば、テキストでも映像でもチャットが可能

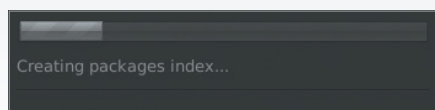
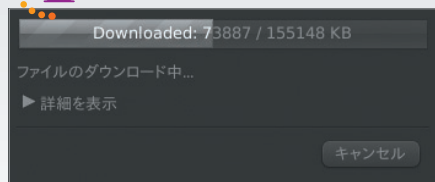
アプリケーションの追加とインストール

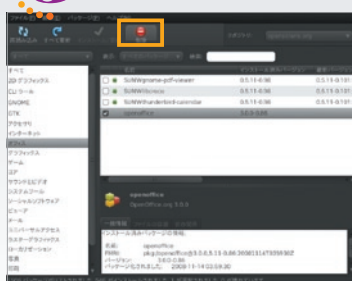
アプリケーションを追加するには「パッケージマネージャー」を利用する。Linuxでは「Synaptic」と呼ばれるパッケージ管理ツールだ。名称は異なるが、アプリケーションの一覧から追加したいアプリケーションを選択してインストールするやり方は同じなので、迷うことはないだろう。

1 「管理」から起動

Jarisベーシックには Open Officeが標準で搭載されていないので、ここで追加してみよう。「START」-「管理」-「パッケージマネージャー」を起動

2 ジャンルの選択

「パッケージマネージャー」にアプリケーションの一覧が表示される。ここから追加するアプリケーションのジャンルをクリックする

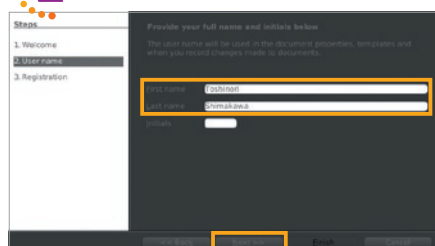
3 アプリの選択

「オフィス」を選択すると、関連アプリケーションが表示される。「openoffice」を選択して、「インストール/更新」をクリック

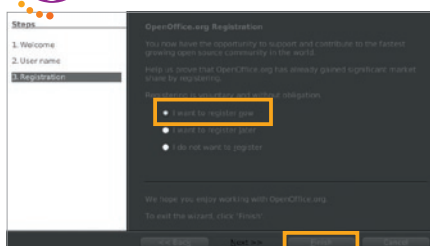
4 ダウンロード画面

パッケージがダウンロードされ、続いてインストールが始まる

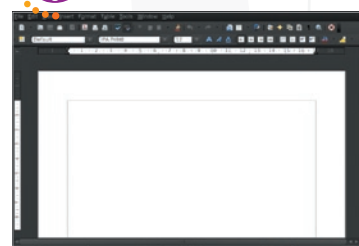
5 追加の完了

インストールの完了。不要なアプリケーションは、「削除」ボタンをクリックすると、アンインストールできる

6 アプリケーションの確認

パッケージがダウンロードされ、アプリケーションが使えるようになる。「START」-「すべてのアプリケーション」-「オフィス」に「OpenOffice.org」が追加された

7 アプリケーションの登録

はじめに登録を行う。名前を入力して「Next」をクリック

8 レジストレーションの実行

レジストレーションするには「I want to register now」にチェックを入れて、「Finish」をクリックする

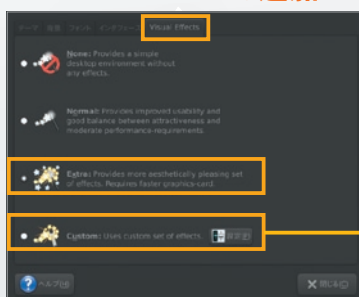
9 アプリケーションの起動

アプリケーションが起動する。これで、JarisでもOpen Office.orgが使えるようになった。ほかにも欲しいアプリケーションがあれば追加しておこう

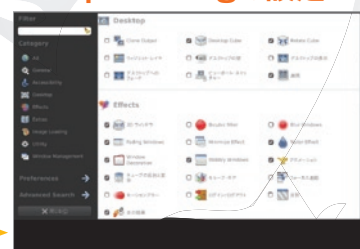
カスタマイズ

JarisはLinuxやWindowsと同様にインターフェイスを自分好みにカスタマイズできる。デスクトップの背景やスクリーンセーバーはもちろん、フォルダやウィンドウのテーマ、表示に使用するフォントなども変更できるぞ。「START」-「設定」-「外観の設定」からJarisのシックなイメージを変更しよう。また、グラボを搭載しているなら、3D表示もぜひ試してほしい。アプリの選択やワークスペースの切り替えに、劇的な変化が起こる！

テーマのイメチェン

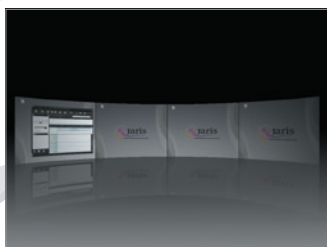
「テーマ」タブで、ウィンドウやフォルダなどの見た目を変更する。「カスタマイズ」ボタンをクリックすると詳細な設定ができる

Visual Effectsの追加

3D効果を加えるには「Visual Effects」タブで「Extra」をチェックする。さらに詳細に設定するには「Custom」をチェックして「設定」をクリック

CompizConfigの設定

「CompizConfig Settings Manager」でデスクトップやエフェクトのそれぞれの項目を設定できる。かっこいいデスクトップに作り変えよう

カバーフロー

「F4」キーを押すと、デスクトップに起動したアプリケーションが、カバーフロー表示される。矢印キーでアプリを選択して「Enter」キーを押す

ワークスペースの展開

マウスポインタをデスクトップ左上に移動すると、4つのデスクトップが一覧表示される。ここから移動するデスクトップを選ぶ

3D切り替え

ワークスペースの切り替え時は立方体に張り付いたデスクトップの面が変わる効果に。ショートカットは「Ctrl」+「Alt」+矢印キー

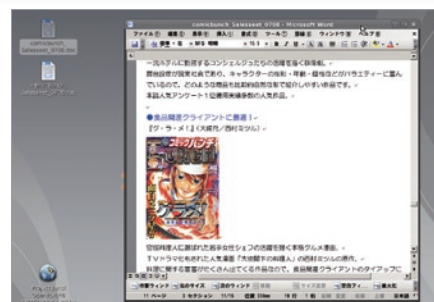
Windowsソフトがそのまま使える!

Chapter 4 WindowsソフトをそのままJarisにインストール

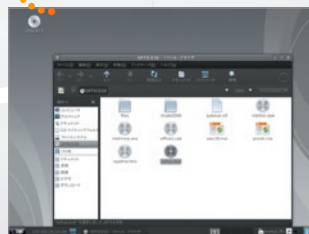
Jarisを使う一番のメリットが「WindowsアプリケーションがそのままJarisで使える」ことだ。Windows XPもVistaもなしで使えるのだ。さっそくWindowsアプリケーションをインストールしてみよう

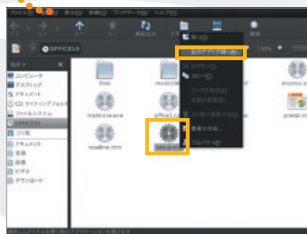
JarisでWindowsアプリケーションを使う

「せっかく持っているWindowsアプリケーションが、Linuxで使えないのは残念」と思っている方も多いのではないだろうか。仮想化ソフトウェア「Virtual Box」を使ってWindowsの仮想マシンにインストールして使うと、かなりのマシンスペックを要求され使い物にならない。そこでLinuxに「Wine」をインストールしてWindowsアプリケーションを使っている方もいるだろうが、端末にコマンドを入力して設定したりとなかなか手に負えない。そんな煩わしさから解放してくれるのがJarisだ。

Jarisには「Madoris（Jaris版Wine)」が標準搭載されていて、Windowsアプリケーションをインストールする下準備はなにもいらない。そしてごく普通にJarisからWindowsアプリケーションが起動する。Windowsアプリケーションも使いたい人には、願ってもないディストリビューションなのだ。

Windowsアプリケーションのインストール

Windowsアプリケーションを用意したら、早速Jarisにインストールしてみよう。「Madoris」というプログラムを介して起動することで、Windowsアプリケーションのインストールウイザードが表示できるのだ。そこからWindowsの場合と同様にインストール作業を進めればOK。あまりにもあっさりとインストールできるので拍子抜けするかもしれない。ここでは、Microsoft Officeをインストールする手順を紹介する。

1 アプリケーションCDをセット

アプリケーションのCDをパソコンにセット。CDのアイコンが表示され、ウィンドウが開く

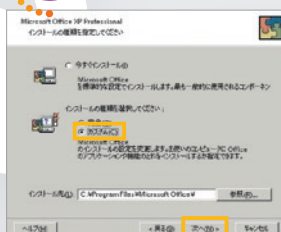
2 プログラムの起動

フォルダから「setup.exe」ファイルを探して右クリックし、「別のアプリで開く」を選択する

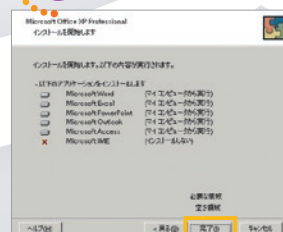
3 Madorisで開く

表示されるウィンドウの中から「Madoris Windows Program Loader」を選択して、「開く」をクリックする

4 ユーザー情報の入力

ユーザー情報の登録欄に必要事項を入力して「次へ」をクリック

5 インストールの選択

JarisではOfficeのIMEを入れると不具合が起こるので、インストールの種類では「カスタム」をチェックし、カスタム画面でIMEのインストールをキャンセルしておく

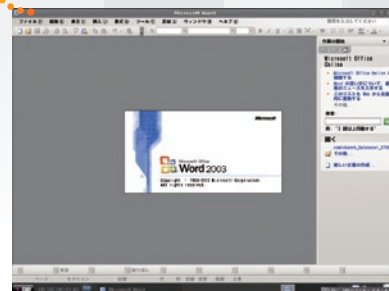
6 インストール

「完了」をクリックすると、インストールが開始される

Windowsアプリケーションの起動

インストールしたWindowsアプリケーションは、そのままJarisで起動して使える。Windowsアプリケーションは「Madris」フォルダに収録されている。これでWindows XPもVistaも用意しなくても、いままでのWindowsアプリケーションが使える。ハードディスクをもう一台用意したり、パーティションを分けてWindowsとデュアルブートなどの必要もなく、Jaris1本ですべてをこなせるぞ。

1 Madrisから起動

Windowsアプリケーションは「Madris」フォルダに収録されている。起動するには、「START」-「すべてのアプリケーション」-「Madris」-「Programs」から選択する

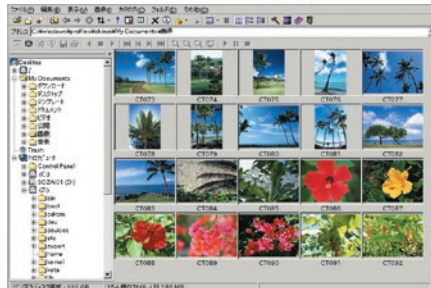
2 起動画面

アプリケーションが起動する。これでJarisでOfficeが使えるようになった。ほかにも欲しいアプリケーションがあれば追加しておこう

Windows用のゲームも遊べる!

あらかじめWindows用のDirectXをインストールしておくことで、PCゲームを起動することも可能

Adobe Photoshop

Photoshop 7は問題なく起動。Photoshop CS2はうまくインストールできないようだ。Illustratorは8と10がインストール可能とのこと

ViX 画像ビューア

フリーウェアはほぼ動作するようだ。画像ビューアの「ViX」もなんなく動く。Windowsアプリケーションを使用すると仮想のWindows上で使っているようにフォルダなどを使用できる

日本語入力の強化

Jarisには標準でAnthyという日本語入力ソフトが搭載されている。ただし、これだけだと心許ないのでSCIMという入力メソッドを追加しておこう。「管理」メニューの「パッケージマネージャー」で検索ボックスに「SCIM」と入力するとSCIMに関連するパッケージが一覧表示される。ここから必要なパッケージを選択してインストールする。

また、Windowsアプリケーションの「Microsoft Office」をインストールしたあと、入力がうまくいかない場合は、Microsoft Officeのインストール時にMS-IMEもインストールしてないか確認してほしい。JarisではMS-IMEが不具合を起こす可能性があるからだ。

「パッケージマネージャー」でSCIMのパッケージをインストールする

SCIMでATOK並の入力ができるようになる

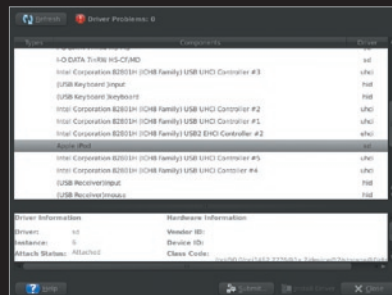
Ubuntuとの違い

日頃Ubuntuを使っている人がJarisを使うと少し迷うかもしれない。JarisはLinuxと同じような構成になっているが、そこはOpen Solaris。Linuxのディストリビューションの違いは兄弟の差とすれば、Jarisはいとこくらいにあたるかも。しかも、あまりにLinuxと違和感なく操作できるので、使いたい機能が「いつもの場所」にないと戸惑ってしまう。

たとえば、Ubuntuなどではアプリケーションを追加するには「Synaptic」を使うが、Jarisでは「管理」メニューから「パッケージマネージャー」を利用する。

また、Ubuntuで自動認識されなかったデバイスドライバは手動でインストールするが、Jarisでは「管理」メニューから「Device Driver Utility」を開く。ここでパソコンの内蔵機器や接続された周辺機器の一覧が表示される。各機器を選択して「Install Driver」をクリックすればいい。

Ubuntuなどにある機能はどこかに用意されているので、慌てずに「設定」や「管理」メニューをはじめ、他のメニューを覗いてみると見つけられるだろう。

Device Driver Utility

周辺機器がうまく認識されなかったりした場合は、ここからドライバをインストールする

いつでもどこでも使えるJarisのLiveUSBを作成しよう!

Chapter 5 JarisでUSB起動ディスクを作る

付録DVDがあればいつでもJarisが使えるのだが、設定をキープしたり、データを保存できない。そこでUSBメモリからJarisを起動できるLiveUSBを作成して持ち歩こう

LiveUSBのメリット

LiveUSBを作成しておけば、ハードディスクをパーティションで分けたり、増設することなくあらたなディストリビューションを使うことができる。1本持っていても損はないぞ。

UMPCですぐに使える

UMPCなどの光学ドライブを搭載していないパソコンでも、USBメモリから起動できる

起動が速い!

DVD起動からよりはもちろん、ハードディスクにインストールしたJarisよりも高速に起動するぞ

データの保存ができる

USBメモリの一部をデータ保存領域にできるので、LiveDVDと違い、データや設定をキープできる

持ち運びがラク

かなり小型のUSBメモリも発売されているので、パソコンに接続したまま持ち運んだりできる

バージョンアップしてもOK

今後のフルバージョンが登場したりバージョンアップしても、入れ替えればディスクの消費もナシ

LiveUSB作成の流れ

LiveUSBの作成には、USBメモリを用意してフォーマットしておく。Webサイトから必要なファイルをダウンロードして、Jarisの端末でUSBメモリにコピーする。ちょっと手間がかかるが、できあがると使い勝手はいいぞ。

USBメモリの用意 ▶ USB用イメージファイルとスクリプトのダウンロード ▶ 端末からコピーコマンドの入力 ▶ Live USBの完成!

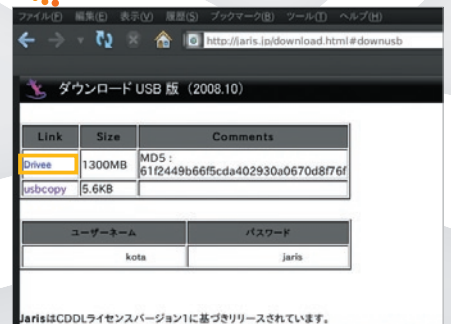
LiveUSBの作成

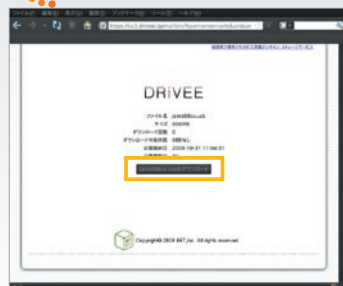
1 ダウンロードのページに移動

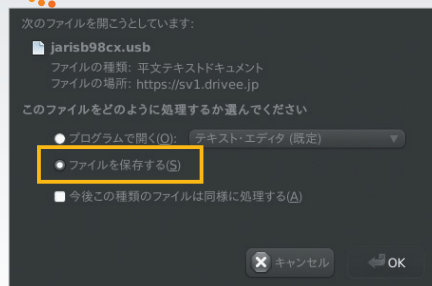
JarisのWebサイトから「Jaris」をクリックする
JarisのWebサイト：http://jaris.jp/

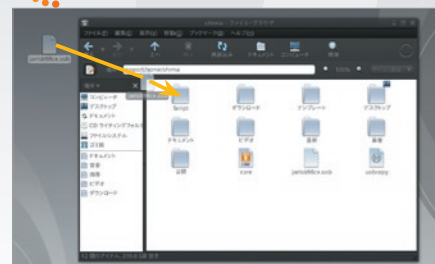
2 USB版ダウンロードのページに移動

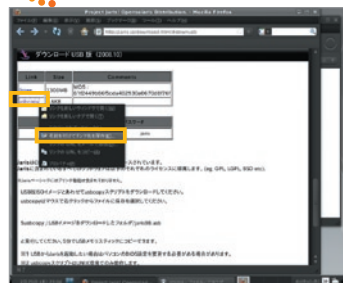
ダウンロードのページで「Jarisベーシックダウンロード USB版」をクリックする

3 Driveeページに移動する

ダウンロードUSB版のページで「Drivee」をクリックする

4 イメージファイルのダウンロード

DRiVEEのページで「jarisb98cx.usbをダウンロード」をクリック

5 イメージファイルの保存

「ファイルを保存する」を選択して、「OK」をクリック。ファイルのダウンロードがはじまる

6 ファイルの移動

デスクトップに作成された「jarisb98cx.usb」ファイルをユーザーフォルダに新規に作成した「Script」フォルダにドラッグする。フォルダ名は任意の名前でかまわない

7 スクリプトファイルのダウンロード

ダウンロードUSB版のページに戻り、今度は「usbcopy」を右クリックして、「名前を付けてリンク先を保存」をクリックする

8 保存場所の選択

名前を「usbcopy」にして「他のフォルダ」を選択し、ユーザー名のフォルダ内の「Script」フォルダを指定して、「保存」をクリックする

9 端末の起動

［START］-［すべてのアプリケーション］-［システムツール］-［端末］をクリックして、端末を起動する

10 スクリプトファイルのダウンロード

```
ファイル(F)  編集(E)  表示(V)  端末(T)  タブ(B)  ヘルプ(H)
shima@jaris:~$ cd /export/home/shima/Script
```

カレントディレクトリに移動するため、「cd /export/home/（ユーザ名）/Script」と入力して、「Enter」キーを押す

11 root権限の取得

```
ファイル(F)  編集(E)  表示(V)  端末(T)  タブ(B)  ヘルプ(H)
shima@jaris:~$ cd /export/home/shima/Script
shima@jaris:~/Script$ pfexec su
```

端末上でroot権限（Super User）を取得するため、「pfexec su」と入力して「Enter」キーを押す

12 スクリプトファイルのダウンロード

```
ファイル(F)  編集(E)  表示(V)  端末(T)  タブ(B)  ヘルプ(H)
shima@jaris:~$ cd /export/home/shima/Script
shima@jaris:~/Script$ pfexec su
# ./usbcopy jarisb98cx.usb
```

準備したUSBメモリをパソコンにセットする。端末に「./usbcopy jarisb98cx.usb」と入力して、「Enter」キーを押す

13 USBメモリの選択

パソコンに接続されたUSBメモリがチェックされる。コピー対象のUSBメモリの番号を入力する

14 データのコピー

英文で「コピー先のUSBメモリの内容が消去されるがOK？」と聞かれるので「y」と入力して、「Enter」キーを押す。データがコピーされて完成だ

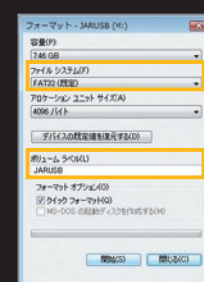
15 LiveUSBで起動する

パソコンをUSBから起動するようにBIOSを設定して、起動する。ライブCDのJarisよりも素早く起動することに驚くだろう

USBメモリを準備しておこう!

LiveUSBに使うUSBメモリは、1GB以上のものを用意しよう。1GBだとJarisのシステム領域にすべての容量が確保されてしまい、データ領域が作成できなくなるからだ。余っているUSBメモリを使用する場合は、容量を確認しておこう。

また、USBメモリはWindowsなどでフォーマットしておくと、インストールがスムーズに行える。WindowsではUSBメモリのアイコンを右クリックして、表示されるメニューから「フォーマット」を選択する。「フォーマット」ダイアログで、「ファイルシステム」を「FAT32」に設定する。「ボリュームラベル」にはなんでもいいので入力する。ボリュームラベルを付けていないと、JarisにUSBメモリをセットしたときに「NO NAME」と表示され、半角スペースが正しく認識されない場合があるからだ。

Linuxの最新情報を厳選レポート!!

LINUX NEWS HEADLINE リナックスニュースヘッドライン

March. 2009

Linuxをめぐる環境は日夜進化を続けている。ここでは、Linuxに関する最新情報やトピックスをお伝えしよう

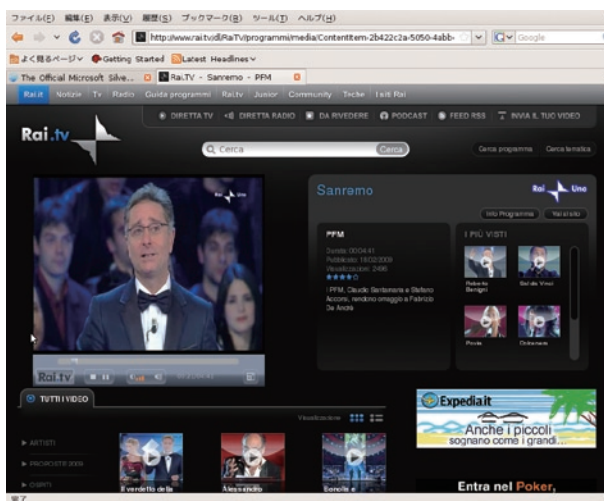
Software LINUX NEWS HEADLINE

2009.1.20 Linuxでも「Silverlight」が視聴可能に!

バージョン2.0にも対応予定

「Yahoo! JAPAN」や「GyaO」の動画配信サービスなどで採用され始めている、MicroSoftが開発したアプリケーション実行環境「Silverlight」。Windows、Mac OS Xに対応し、Internet Explorer、Firefox、Safariで利用可能なこのプラグインをLinuxでも利用可能にするのが「Moonlight」だ。「Moonlight」はLinux用Firefoxのプラグインとして提供され、現在発表されているバージョン1.0では「Silverlight1.0」のみへの対応となっているが、最新の「Silverlight2.0」にも次バージョンで対応予定。新しい技術への対応が一歩遅れることが少なくないLinuxで、最新プラットフォームである「Silverlight」が実行可能になり、様々なコンテンツが楽しめるユーザーにとって非常に価値のあることだろう。

▶最新プラットフォームを「Moonlight」で

Firefoxの機能拡張プラグインで「Silverlight」が利用可能に!

Firefoxから「Silverlight」のコンテンツにアクセスすれば視聴することが可能。最新プラットフォームへの対応によって、Linuxの今後の可能性にさらなる期待が持てる

「Silverlight」にアクセスする前に、まずは「Moonlight」の公式サイトからインストールしよう

「Silverlight」の最新バージョンは2.0。近いうち「Moonlight」もこのバージョンに対応するとのこと

Software LINUX NEWS HEADLINE

2009.1.21 Red Hat Enterprise Linux 5.3提供開始

25台あたり288,750円から

「Red Hat Enterprise Linux」は、ライセンスが無料な代わりに、サポート料金を徴収することでレッドハットが運営される業務向けLinuxディストリだ。1月21日に提供開始のバージョン5.3では、32仮想CPUとCore i7に対応し、レッドハットの内部テスト結果では、商用アプリケーションの性能が従来プロセッサに比べて170%向上としている。業務向けのため、同社は企業向けイベントも開催している。

▶Intel Core i7 をサポートした「RHEL 5.3」

バージョン5.3では4タイプが用意されている

購入の申し込みや問い合わせは、レッドハットの公式サイト(http://www.jp.redhat.com/)上で可能

- **RHEL Desktop**
  デスクトップシステムとノートPCシステムに適したタイプ
- **RHEL Desktop with Multi-OS option**
  マルチOSオプション付き、複数のゲストオペレーティング環境をホスティングできる
- **RHEL Desktop with Workstation option**
  RHEL Desktopワークステーションにより大規模なクライアントシステムのサポートを提供。ソフトウェア開発などに最適
- **RHEL Desktop with Workstation and Multi-OS options**
  すべてのデスクトップ機能とオプションを単一の製品に統合したもの

Service

LINUX NEWS HEADLINE

2009.2.9

日本HPがLinuxを有償サポート

大手メーカーでは初の試み

Red Hat Enterprise Linuxからアメリカ Red Hatの商標にかかわる部分を取り除き、フリーのLinuxディストリビューションとして提供されている「CentOS」。日本ヒューレット・パッカードは、この「CentOS」を含むオープンソースソフトウエアの有償サポートサービスを、2月9日よりスタートさせた。この試みはヒューレット・パッカード日本法人独自のもので、大手サーバーメーカーでは世界でも初めてとのことだ。サービス名称は「オープンソース・エクスパート・サービス」。日本のみを対象としたサービスだが、ヒューレット・パッカードのワールドワイド製品開発部隊が中心となり進めていくという。「CentOS」をはじめ、対象となるソフトウエアも豊富で、サポート内容によって複数の価格帯が用意されている。

▶HPの「オープンソース・エクスパート・サービス」

「CentOS」以外にも複数のOSをサポートする

サービス内容や価格等はHPの公式サイトに掲載されている。現状の最低価格は12ヶ月契約で月額50万円となっている

Red Hatと関連の深いCentOSのほかに、Fedora やDebianなど、一般ユーザーに広く知られたディストリビューションもサポートしている

対象ソフトウエア

CentOS、Fedora、Debian GNU/Linux、BIND、Heartbeat、Samba、vsftp、Apache HTTP Server、mod_jk、mod_proxy、Squid、Sendmail、Postfix、Dovecot、OpenLDAP、OpenSSL、OpenSSH、PostgreSQL、Tomcat、JBoss Application Server、Geronimo、Glassfish、Struts、Spring、JBoss ESB、JBoss jBPM、JBoss Hibernate、JBoss Drools、JBoss Seam、CVS、Subversion

Software

LINUX NEWS HEADLINE

2009.2.15

「Debian GNU/Linux 5.0」がリリース

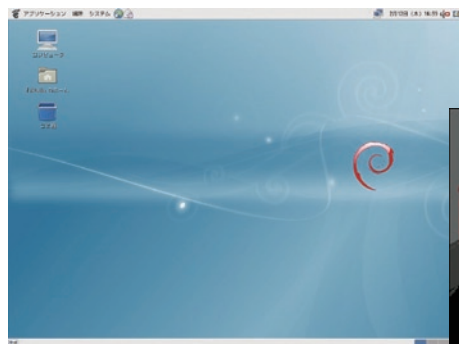
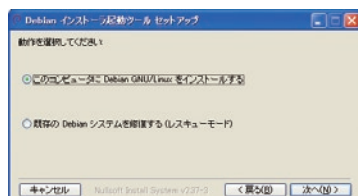
約2年のときを経てバージョンアップ

Debian Projectは日本時間2月15日、約22ヶ月ぶりのメジャーバージョンアップとなる「Debian GNU/Linux 5.0」をリリースした。

「Ubuntu」や「KNOPPIX」のベースでもあるこのディストリビューションは、12種類のアーキテクチャや幅広いパッケージをサポートし、今回のバージョンアップではASUSの「Eee PC」などネットブックにも対応。さらに、i386版などではWindowsからのインストールが可能になり、ファームウェアをリムーバブルメディアからロードできるなど、インストール面でも複数の改良が施されている。

今回の5.0リリースによって、安定版として提供されていた4.0のサポート期間が約1年となる。利用者は、早めのバージョンアップを検討したほうがいいだろう。

▶「Ubuntu」などのベースとなる「Debian」

このバージョンでWindowsからのインストールも可能に

Windows上でダウンロードしたCDイメージなどからインストーラを起動して作業をすすめることができる

Windows上から直接インストールできるので、障壁がかなり下がったといえる